

第2回専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会
委員長 館 正知

平成6年11月26、27日に第2回専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会はこの試験で用いられた試験問題を公表することといたしました。試験方法は、第1回目と全く同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載いたします。

1. 筆記試験

{筆記試験問題挿入}

2. 口頭試験

【A-1問題】

1. 健康診断の結果、職業性疾患が疑われる者を発見した。この後どのような措置をするかについて、できるだけ順を追って述べよ。

- ・ 診断の確認。精度管理、同じ作業に従事する者の結果を見る、精密検査（鑑別診断）
- ・ 上司、担当者への連絡
- ・ 作業環境の確認。環境測定、バイオロジカルモニタリング結果の調査・作業方法の確認。定常作業・非定常作業
- ・ 必要に応じて、配置転換・休業、作業、環境の改善。
- ・ 労災手続き、業務上疾病届

2. 企業外健診機関へ健診業務を委託する場合に配慮すべき点について述べよ。

- ・ 精度管理（総合精度管理）
- ・ スクリーニングレベル（再精検率）
- ・ 費用効果（待ち時間、面接時間）
- ・ 産業医の関与
- ・ 事後措置、結果報告までの期間
- ・ 担当者の明確化

3. 健康教育と衛生教育の違いを述べよ。
 - ・それぞれの必要性、目的、法的根拠
 - ・それぞれの計画策定のポイント（対象者、頻度、時期）
 - ・代表的手法（講義形式、参加型、小集団活動）
4. ある工場で気管支喘息の有病者が増加してきていることに気づいた。この時点で産業医としてとるべき措置を述べよ。
 - ・有意な増加か確かめる
 - ・有意でない場合の措置（今後の増加を早期に発見できる態勢）
 - ・職場、職種、暴露物質、性、年齢などの分布の特徴
 - ・診断基準
 - ・労働者の出入りの有無
 - ・職業起因性であった場合の措置
5. 産業医学情報の入手先として、実際に経験したものを列挙して、その特徴を述べなさい。
 - ・雑誌
 - ・学会
 - ・化学物質の便覧類
 - ・データベース検索
6. Y県のK信用金庫の女子行員さんが犯人からの取材依頼の電話で呼び出され、上司の許可をとり外出して刺殺された。商社マンのBさんは東京出張の帰途、S県内を走行中の新幹線のぞみの車内で、麻薬常用者に刺殺された。以上の2件について労働災害の業務上外について論じよ。
 - ・業務遂行性
 - ・業務起因性
7. 妻子ある男性労働者に、Marie（脊髄小脳変性症）が発症し、運動失調のために歩行困難になった。現在は出勤は奥さんの介助で可能である。職種はオーディオ製品の座位での組立である。どの時期をもって出勤禁止とするかについて論じよ。
8. 定期健康診断で今回はじめて高脂血症を疑わしめる結果が認められた。その事後措置について、再検、精検、指導を含め、順を追って説明せよ。
9. 別添図の作業の安全衛生について危険予知をして下さい。

10. 化学物質の人体暴露と代謝の道程（道筋）を述べ、健康障害との関連について、例を挙げて説明せよ。

- ・吸収経路（呼吸器、二次嚥下、皮膚・粘膜）、吸収率に関係する因子
- ・排泄、代謝、蓄積
- ・ガス・蒸気、エアロゾル（粉じん、ミスト、フェーム）、液体
- ・バイオロジカルモニタリング
- ・生物学的半減期

【A－2問題】

1. 企業内でメンタルヘルスを考える場合、大きな健康づくりの一環として捉える必要がある。その際、企業の人事管理的立場と個人のプライバシー保護に関する配慮を基本として、カウンセリング、治療、職場復帰などの個別的対応を進めなければならない。産業医の倫理的配慮のあり方を議論して整理して下さい。
2. わが国における産業医の将来像について、期待される業務内容、医学界での位置づけ、養成のための方策、法制度のあり方、地域における制度運営の在り方などを含め討議して下さい。
3. 労働者数2,000人、平均年齢43.5歳の企業で、専任の衛生管理者、産業医、保健婦がそれぞれ1名ずつ勤務している。この企業は情報化時代にやや乗り遅れており、昨今の不況の影響を強く受けたことから、経営側は人員削減による生産性の見直しを求めている。経営側と労働側から出であろう、産業保健に対する課題を、産業医として予想して下さい。

【B問題】

1. AIDSに対する社会的関心は益々高まってきている。企業としても早急に対策を立てなければならない。しかし、あなたの会社の経営者はその必要性和具体的方策についての理解はまだ低い。日頃のラインを通じての働きかけが功を奏して、今回ようやくAIDSに関する社内教育の提案を役員会で直接説明する機会が与えられた。社内教育の企画を立てるとともに、それを承認してもらうための、意義、費用、期待される効果、予想される問題などの説明を準備して下さい。

2. 今まで専属産業医が一度も勤務したことがなかった、規模2,000人程度の建設会社へあなたは、新しく産業医として勤務することとなった。事業所としては、本社(900人)、研究所(800人)、作業所(300人)等にわかれており、職種も事務・管理職、研究職、設計・監督、現場作業員等種々である。現場作業所は全国に、時期によって違うが、平均80ヶ所程度が全国に展開しており、会社社員と協力会社社員とが共通作業をしている。取り組まなければならない健康管理問題について発表して下さい。
3. 雇用労働者 5,000人(平均年齢41.3歳・定期健康診断受診率87.6%・異常率 30.8%の企業である。有害物としては、有機溶剤・特化物・電離放射線(管理区域なし)の取り扱いが存在する。事業場は生産工程に拠って3ヶ所に分散し、各事業場に嘱託産業医が雇用されているが、定型的作業の消化だけで、労働者の評価はあまり高くない。衛生管理者は総務部門の所属で、あなたには保健婦が一人就いている。あなたは、学会認定の専門医として総合的な衛生管理の推進を期待されている。向後5年間で視点にいた産業保健計画を立案して下さい。
4. 15年程前に、減量経営にせまられた企業が、交替勤務制度に関し、次のような変更を労働組合に申し入れ、これが受入れられた。
この変更案についてのメリット、デメリットについて比較検討して、発表して下さい。
変更前の勤務形態は、AA、BB、CC、DDの8日サイクルの正循環の4班3直で、変更後の勤務形態は、AAAAA土日、BBBBBB土日、CCCCC土日の正循環3直で、土日は休日である。この場合4班3直から、3班3直へ1班が無くなっているが、これは無視するものとする。
但し、Aは8:00~16:00、Bは16:00~24:00、Cは24:00~8:00の勤務時間帯、Dは休日である。年間総労働時間は同じである。工場のこの勤務に従事していた労働者の既婚、未婚の割合はほぼ半々であった。この所在地は地方都市である。
5. あなたは健康管理に対する認識が不十分だと感じている事業所の産業医を担当しています。今回、法定一般定期健康診断のスクリーニングレベルの意味と事後措置のあり方について、衛生委員会で説明する機会ができました。10分間で発表する資料を作り実際に発表して下さい。